

プロジェクト課題活動実績

課題名：集落営農法人等を中心とした重点品目の生産拡大

周南農林事務所農業部チーム員

：近藤修一、渡辺大輔、朝山哲也、三原文典、熊谷恵、寺山豊

<活動事例の要旨>

集落営農法人等が行う、麦・大豆・キャベツの安定生産を図るため、排水対策・適正な栽培管理・除草対策などの技術指導を行うとともに、平成27年度に単県事業により導入した大豆の乾燥調製施設の共同利用を円滑にすすめるため関係する3法人との連携を進めた。また、キャベツでは、巡回指導を頻繁に実施し栽培管理の徹底を図った。

1 普及活動の課題・目標

- ・法人が栽培する畑作物の生産安定(今年度目標)
 - 法人の大豆出荷量 90 t
 - 法人の小麦出荷量 110 t
 - 法人のキャベツ出荷量 50t

2 普及活動の内容

(1) 大豆生産の定着

ア 生産安定

- ・周南農林事務所管内で大豆を生産している法人の生産安定と平準化を図るため、①播種時期に応じた播種量や適正な播種深度のための播種機の設定確認、②雑草(中期除草剤の効果的使用)対策、③吸汁性カメムシ類等の適期防除を重点として、法人が行う役員会に出席して指導した。
- ・栽培講習会・現地巡回指導や培講習会等で栽培管理の徹底を図った。



イ 機械・乾燥調製施設の利用調整

- ・周南市北部地区での法人間の連携をはかるためと、平成27年度の単県事業で導入している大豆の乾燥調製施設の共同利用を円滑に進めるため、収穫調製作業等を考慮したほ場の利用計画・作業計画等を提案し関係3法人と関係機関で協議を進めた。

(2) 麦生産の定着

ア 生産安定

- ・平成28年産麦については、新規設立2法人が麦の栽培に取り組むことになったため、重点的に指導を行った。
- ・パン用小麦として必要なタンパク含量12%以上を達成するため開花期追肥の指導を重点的に実施した。
- ・平成29産麦については、排水対策や適期播種等の徹底を図った。また生育調査等の結果に基づき情報誌等を作成配布するなど、追肥や踏圧作業などの栽培指導を行った。



(3) キャベツの生産安定

- ・個別巡回指導により栽培管理を徹底した。
- ・栽培期間の拡大と継続・計画的な出荷を図るため、品種・作型を組み合わせた試験ほを設置した。

3 普及活動の成果

(1) 大豆生産の定着

ア 生産安定

- ・必要な苗立ち数（単位面積（㎡）当たり20本）を確保した法人が昨年の2法人から3法人に拡大した。
- ・11月の高温・多雨等の気象条件の影響により、出荷量は62.5 t（目標110 t）と昨年の55.7 tに比べやや増加したが目標収量には及ばなかった。

イ 機械・乾燥調製施設の利用調整

- ・A法人がB法人のほ場の中耕培土・病害虫防除を実施した。
- ・収穫・乾燥調制作業をA法人が作業受託して、2台のコンバインでA法人、B法人、C法人のほ場を約2週間で終了した。北部地区の法人間の連携が進んだ。

(2) 麦生産の定着

ア 生産安定

- ・平成29年産麦は、降雨等による播種の遅れにより生育が不足したため全体的に単収が低くなり、出荷量は86 t（目標110 t）と昨年の101 tに比べ低くなった。
- ・昨年と同様に法人間の単収のバラつきが見られた（54～286kg/10^a畝）が、タンパク含量は12%以上を確保した。

(3) キャベツの生産安定

ア 安定生産

- ・栽培管理がやや遅れ気味となったが、生育は概ね順調で、収量も確保できた。
- ・除草剤を散布したが効果が低くタデ等の雑草が多発生したため、法人では人力で除草を行った。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 大豆生産の定着

- ・低単収の法人に対して重点的に指導を行う。
- ・播種時期に応じた適正な播種量・播種深度の設定等を引き続き指導する。
- ・A法人の乾燥調製施設を拠点とし北部地区の大豆生産法人間の連携を一層進める。

(2) 麦生産の定着

- ・低単収の法人に対して重点的に指導を行う。
- ・排水対策や開花期追肥の徹底など栽培技術の普及定着を図る。
- ・新規設立法人により麦生産量が増加する見込みのため、JA周南の乾燥調製施設等の活用を含めた乾燥調製方法等を検討する。

(3) キャベツの生産安定

- ・品種比較試験を継続して行う。
- ・タデ等の雑草対策の検討と指導を行う。